

TEAM LEGACY

～スポーツの力で
こどもを変え、地域おこし～

第1回目報告書



4月28日(土)
玖珠町立森中学校
講師:岩崎恭子

報告内容

4月28日(土)、大分県玖珠町立森中学校にてプロジェクト第1回目を無事終えることが出来ました。講師は岩崎恭子さん。前日に机と椅子を体育館に運び、教室の雰囲気をつくり出しました。参加者約120人(森中学校2年生30名・保護者・関係者)。対象となる中学生の後ろで保護者・関係者が話を聴くというスタイルでしたが、上手く教室の雰囲気を作り出せたことから、中学生の集中力はもちろん、岩崎さんを身近に感じてもらえ、積極的な姿勢で質問も出てきました。



授業時間は1時間、始めに岩崎さんより自己紹介をしていただき、バルセロナオリンピックでの金メダルを披露して頂く予定でしたが・・・岩崎さん、お家にメダルを忘れてきてしまったらしく、「これはまた玖珠町に來いということですね。」の言葉が笑いをさそい、会場が和みました。



会場が和んだ後の進め方については、中学生が岩崎さんに質問してみたい内容を事前に秦が受け取り、その質問にしたがって秦と岩崎さんがトーク形式で会を進めました(出てきた質問については以下の通り)。途中で岩崎さんより中学生に質問を投げかけてもらったりと、中学生がただ一方的に岩崎さんの話を聞くのではなく、しっかりと互いにコミュニケーションがとれた良い時間になりました。

※中学生から事前に出てきた質問

- ・何歳から水泳を始めたか
- ・水泳を始めたきっかけ

- ・一日どれだけ練習をしていたか
- ・バルセロナオリンピック前の練習量はどれくらいか
- ・オリンピック本番はどのような気持ちだったか
- ・どうして勝てたのですか
- ・どうして本番で自己ベストが出てきたのですか
- ・どこからパワーが湧いてきましたか
- ・競技生活において、上手いいかないことはありましたか
- ・バルセロナオリンピック、アトランタオリンピックで気持ちの違いはありましたか
- ・オリンピックはどんな舞台だったか

- ・引退してからの楽しみは何になりましたか
- ・水泳を通して学んだことは何ですか
- ・今、夢はありますか



そして最後に、バルセロナオリンピック金メダル獲得後の「今まで生きてきた中で一番幸せです」という言葉があるが、「今、岩崎さんにとっての幸せとは何か」について秦から質問をし、会を終了しました。

1時間という短い時間の中で、質問をもとに進めた会ではありましたが、「人にどう思われてもいい。私がしっかり取り組めば身近な人は気づいてくれる。」「好きなことをしてほしい。でもその好きなことは正しいことでないといけない。」「大人は自分たちが子どもころの気持ちを忘れているけど、みんなのことを想っていろんなことを教えて、言ってくれる。」など、対象の中学生と同じ年齢で世界のトップをつかみ、注目され、様々な気持ちを感じて生きてきた岩崎さんからの言葉は中学生にとってはもちろん、普段の中学生を知る保護者や先生たちにとっても気づきの多い時間となりました。

最後に岩崎さんより送られた「悩んだり、つらいと思うのはまだ頑張れるということ。行動力と自ら考える力を磨いて成長を続けてほしい。」という言葉には、奥深さが感じられ、まさに、かねてから狙いとしていた「アスリートより人生を歩くヒントをもらえた」ような気がしました。



終盤で行った記念撮影では、中学生と岩崎さん。参加者全員と岩崎さんで写真を撮り、生徒・生徒の兄弟にもフレンドリーに接して下さった岩崎恭子さんでした。



中学生と岩崎さん



参加者全員と岩崎さん



生徒の妹さんと話す岩崎さん



中学生と話す岩崎さん

おわりに・・・

今回の会を迎えるまで、事前学習等を行い中学生・先生方と密にコミュニケーションをとってきました。その中で、なかなか自分を出せない子・持っているパワーを温存している子などが居ました。しかし、今回の授業ではいつも人前で発表しない子が手をあげて発表し、感想等ではしっかりと自分の考えをもった子がいることに私たちも、先生方も気づかされました。



「スポーツの力でこどもを変え、地域おこし」今年の取り組みは地域おこしにつながる第一歩の段階であり、こどもたちに向けられた内容が主となっています。しかし、今回をはじめ今後残り2回の取り組みは、中学生はもちろん、主催側・先生方・保護者にとっての気づきも多く、普段では感じられない想いや、学ぶべきものがたくさん隠れています。どれほどの人がそのヒントに気づき、その後の人生に活かせるか。3回目が終わった後にみられる玖珠町の人の表情が楽しみで仕方ありません。



マスコミ掲載・他

今回のプロジェクトが大分県内のマスコミに取り上げられました

新聞	大分合同新聞
新聞	毎日新聞
新聞	西日本新聞
テレビ	TOS大分放送
大分県	広報取材
玖珠町立森中学校HP	

大分合同新聞



大分合同新聞(web版)

ニュース 地域 人生のヒント伝える アスリートら招くプロジェクト

人生のヒント伝える アスリートら招くプロジェクト

04月30日 03:01

大分合同新聞

1992年のバルセロナ五輪女子200メートル平泳ぎで金メダルを獲得した岩崎恭子さん(39)が28日、玖珠町の森中学校で講演した。同校を卒業した大学生が企画したプロジェクトの第1弾。8月までに計3回の予定でアスリートらを招き、スポーツの楽しさや人生のヒントを伝える。



人生のヒント伝える アスリートら招くプロジェクト

(大分合同新聞)

企画したのは明海大学(千葉県、埼玉県)4年の秦絵莉香さん(21)ら2人。これまで町内の中学校にプールはなかったが、来春開校予定の統合中学校「くす星翔中学校」にできることを契機に、アスリートの生きざまに触れる機会を提供し、子どもたちの今後の人生に生かしてもらおうと考えた。同大学浦安キャンパス同窓会に提案し、支援金100万円を受けた。

講演には2年生ら約120人が参加。岩崎さんは金メダル獲得後、過剰な注目に苦悩して不調が続き、一時は競泳を嫌いになった体験を披露。「人にどう思われてもいい。私がしっかり取り組みれば身近な人は気付いてくれる」と考え、再び競泳に向き合うことを決めたという。

水泳を楽しむことを思い出した後は猛練習を重ね、96年のアトランタ五輪に出場。10位に終わったが、「五輪は自らを成長させてくれた。アトランタ五輪までの経験は今でも自信となっている」と振り返り、「悩んだり、つらいと思うのはまだ頑張れる時期だということ。行動力と自ら考える力を磨いて成長を続けてほしい」とエールを送った。

合谷翼さん(14)は「自ら何をしたいかを考え、行動を起こしていきたい」と話した。

森中だより11号(抜粋)

森中学校 2018年(平成30年) 3月20日発行 文責 校長 平原一幸

オリンピック選手が森中へ

今年の4月27日(金)に、元オリンピック選手金メダリストの岩崎恭子さんが森中学校へ来校することとなりました。総合的な学習の時間の講師として新2年生(現1年生)を対象に授業をさせていただきます。

もちろん、このような授業が実現すること自体が夢のような話なのですが、これに至るには、本校のある卒業生の「夢をあきらめない心」があったのでした。その生徒の名前は秦絵莉香さん。森高校を卒業しCA(キャビンアテンダント)をめざして大学に進学しました。しかし、そこで学ぶうちに、自分の本当にやりたいことを見つけたのです。そしてその夢実現に向け、温めてきた構想を企画書にし、その大学で行われている「夢プロジェクト」に応募したのでした。彼女の夢は、「スポーツを通してふるさと玖珠を活性化すること」。しかも、まずは、そこで暮らす子どもたちを元気にし、大きな夢を持ってもらい、世界に挑戦して行ってほしい、そして、その元気で大人を元気にし、ひいては玖珠町全体の元気につなげていきたいというものなのです。昨年11月に大学で行われた「プレゼン」でもこのことを訴え、この企画は見事に優勝を勝ち取りました。そして、その夢実現のための費用にと、100万円の副賞を手にしたのでした。

本日、秦先輩の授業が、1年生で行われました。本人の想いやこれからの具体的な取り組みが伝えられました。オリンピック選手とともに創る授業、今後が楽しみでたまりません。



HOME > 学校からのお知らせ > 岩崎恭子さんを迎えて！～オリンピック選手とともに劇る授業～

学校からのお知らせ

岩崎恭子さんを迎えて！～オリンピック選手とともに劇る授業～

2018年04月29日

4月28日(土)、いよいよ「オリンピック選手とともに劇る授業」が始まりました。バルセロナオリンピック金メダリストの岩崎恭子さんが来校し、総合的な学習の時間の講師として、2年生生徒に授業を行いました。

これは、これまでもお伝えしてきた通り、本校卒業生、秦絵莉香さんの「夢プロジェクト」により実現したものです。参照：[森中だより\(11号\).pdf](#)

当日は、体育館に教室の机を持ち込み、多くの方々の観覧の中、秦先輩と講師の対話形式で授業はすすめられました。「バルセロナオリンピックの時の様子」「金メダルをとれるに至った経緯や思い」「金メダルを取った後の様子」「過剰な注目の中での苦悩」「アトランタオリンピックに向けた思い」「最近の生活の様子」など、事前に生徒から出された質問にも答える形で、講師から生徒にその内容が語られました。講師の明るく軽快なテンポで語られる内容に、生徒も非常に親近感を持って聞いている様子でした。ただ、時々だされる講師からの質問には、緊張感からか、たじたじの様子も見られましたが...

最後に、「周りの大人の声にも素直に耳を傾けながら、自分自身の思いを行動に移していけば、きっと人生も楽しくなるし、正しいことも身につけていける！」というメッセージを頂きながら、授業を終えました。



岩崎さんの入場です！



対話形式ですすめて下さいました。



子どもたちの真剣な顔！



お礼の言葉



お見送りです！



会場のみなさんと笑顔で「チーズ！」

生徒代表お礼のことは

今日はお忙しい中、森中学校に来てお話を頂き、ありがとうございました。私は、岩崎さんの話の中で、「自分にできることを精一杯やろう」とする姿、「言われてやることと自分で考えてやることは身につ方に違いがある」ということにとっても共感しました。なぜなら、それは私たちのクラスにとっても当てはまると思ったからです。私たちは2年生に進級し、やる仕事も多くなりました。その時、「これはできないからやめよう」と思うのではなく、自分にできることを精一杯やろうとする考えを持ち行動することの大切さを知ったからです。また、「言われてやることと自分で考えてやることは身につ方に違いがある」という話がありましたが、今私たちは、一年生の時の、言われてやるクラスから自分で考えて行動できるクラスへと変わろうとしているので、この言葉にはとても共感することができました。これからも自分たちで考え行動していくことを意識していきたいです。今日は貴重な話と体験を講演していただきありがとうございました。これからのご活躍をお祈りしています。

大分合同新聞記事より [2018年05月01日08時28分11秒.pdf](#)

